

## 内容分析の歴史と質的研究の今後の課題

上野 栄一

富山医科薬科大学医学部看護学科

### はじめに

最近、質的研究が看護研究の中で注目を集めている。特にグラウンデッドセオリーといった研究を中心に解説した著書が出版されている。その中で内容分析は、多くの解説はなく、方法論にいたっては詳細に論じたものはない。情報処理の分野では、データマイニングという手法が使われている。内容分析は17世紀にその起源をもつとされている<sup>1)</sup>。欧米には、内容分析に関する著書や論文が数多くあるが、日本ではその数は少なく、Berelson<sup>2)</sup>やKrippendorff<sup>3)</sup>の著書が代表的な内容分析の紹介をしている。また、内容分析は日本においては、質的研究の著書の中に、紹介はしているが、具体的な方法についてはほとんど書かれていないのが現状である。質的研究の著書は最近あいついで出版されてきており<sup>2,4-11)</sup>、看護界での関心の高さをうかがわせる。質的研究の著書では、舟島<sup>4)</sup>が現象学、エスノメソドロジー、グラウンデッド・セオリー等について、看護のための質的研究方法論を中心にまとめている。また、野口<sup>11)</sup>は、著書の中でフェミニストアプローチとフォーカス・グループについてまで言及している。

社会学や看護研究などでよく用いられているグラウンデッドセオリーの基本は、StraussとCorbinの著書<sup>4)</sup>の中で、技法と手順について詳細に述べられている。近年、質的研究の著書が増えてきてはいるが、いずれにしても、その中心はグラウンデッド・セオリー、Ethnography等を中心とするものであり、内容分析の手法を主体的に扱ったものはまだない。

本稿では、内容分析の歴史を振り返り、質的研究の現状の問題点を探り、今後の課題を示した。

### 内容分析の歴史

質的研究は、Renata Tesch<sup>12)</sup>によれば、心理学・教育学の分野で、1960年～70年代頃からようやくとり入れられ始めた。社会学においては1960年代より始められた。一方、内容分析については、表1に示すように17世紀にその起源はある。最初は、詩の分析であったが、マスメディアの発達、社会情勢の変化とともに、新聞内容、テレビ、ラジオ番組の内容分析が多くなされた。さらに、コンピュータの発達が大量のメディア・テキストを分析するために用いられた。以下、各年代順に内容分析の歴史をみてみよう(表1)。

内容分析は、1700年代に作られたジオンの歌の分析(印刷物を対象とした量的分析)に始まるとされる<sup>1)</sup>。以下に1800年代以降の内容分析の研究についてその特徴を述べた。

1800年代後半:新聞の量的分析が始まる。

1900年代初頭:新聞の量的分析が主流、小説の分析、会話の分析が行われた。

1930年代:コミュニケーションの分析、大衆雑誌の分類、ニュース映画、ラジオ内容の分析、プロパガンダ分析の研究が盛んに行われる。特にテレビ、ラジオといったマスメディアの発達は内容分析の研究に大きな影響を与えた。また、プロパガンダ分析は、第一次世界大戦を契機に急速に発展した。

1940年代:プロパガンダ分析、教科書の分析、精神障害者の会話の分析、ラジオ番組の分析、大統領選挙運動の分析、心理学的な記録の数量的分析、フロイトの夢分析、映画の分析、個人面接や記録観察に関する回答の体系的・客観的分析、社会学の研究、臨床心理的な推測に関する研究、芸術作品の分析、ドラマの分析、内容分析の妥当性など

様々な研究がなされた。

1950年代：信頼度の問題，テレビジョンの教育的内容の分析，一致係数，コンピュータを利用した最初の内容分析：[約4,000の民話の分析（コンピュータによるテキスト分析）]，構成概念妥当性に関する研究が現れた。

1952年にはBerelson, Bernard.が「Content Analysis in Communication Research」<sup>15)</sup>を執筆。その後，日本にも紹介された。

1960年代：ジャーナリズムの領域での研究，一致係数，雑誌広告の中身の比較，文学の内容分析，妥当性，KWICの一覧表示，コンピュータの利用，語彙の分類，計算機言語学の最近の発展に関する論述，記録単位，検索単位，意味論的解釈，意味論的妥当性，コミュニケーション内容の分析など。

1970年代：映画，心理療法，新聞紙面のオンライン分析：コンピュータの利用，テレビのコマーシャル，外国ニュースの報道量，活字の大きさや記事面積，Ethnographic Interview，内容分析の方法論，統合失調症に関する研究，クラスター分析など。ここで，特異なのは，活字の記事面積を分析対象とした論文が登場したことである。

1980年代：クラスターの分析，出版物の内容分析，メディアの分析，音楽の内容分析，心理療法，内容分析の方法論が論じられた。Krippendorffの著書の中では内容分析についてコンピュータを利

用した方法論についても解説している。

1990年代：インターネットでの内容分析，内容分析の方法論，内容分析の概念，社会科学調査における内容分析の方法，音声言語処理，コーパスに基づくアプローチ，テキスト解析のコンピュータプログラム開発，単語カウントなど様々な方法が開発された。この年代は，Windows 95が開発され，また，内容分析のアプリケーションソフトも欧米を中心に開発され，言語処理やインターネットの内容分析が登場した。

2000年代：データマイニング，情報検索，自然言語処理，内容分析の紹介，コーパス言語学，質的研究といったようにコンピュータを利用した内容分析が主流となってきた。研究においては対象者を多くしたり，また対象となる印刷物の情報量も増えてきていることに関与していると考えられる。

以上のように，内容分析の歴史は第一次世界大戦（1914年），第二次世界大戦（1939年），マスメディアの発達などの社会情勢に大きく影響されていたことがわかる。特にプロパガンダ分析は戦争の大きな影響を受けて登場した。

最近の内容分析は多くの領域で使われている。特に社会学，言語学をはじめとして，文学，情報科学，歴史等で使われている。看護学では，まだ内容分析を用いた研究は少ないが，今後多く使用されるであろう。

表1 内容分析の歴史（研究年表）

年	著者等	内容分析の研究項目
18世紀		ジョンの歌(90の賛美歌を集めた歌集)の分析(印刷物を対象とした量的分析)
1893年	Speed	「今，新聞はニュースを提供しているか」(新聞の量的分析)
1893年	Speed	新聞の過去と現在の話題カテゴリーの変化：(動向)システム：(推論の利用と種類)
1900年	Wilcox	イエロージャーナリズムと発表(新聞の量的分析)
1903年	Loebl	新聞が果たす社会的機能によって，「内容の内的構造」を分析する洗練された分類構造を公にした。
1909年	Street	新聞の真実を明らかにしようとした(新聞の量的分析)
1910年	Fenton	新聞記事は，犯罪の増加や反社会的行動に影響を及ぼす：(新聞の量的分析)
1910年	Mathews	新聞の量的分析
1912年	Tenney	内容分析に関係するシステム概念：(システム)(推論の利用と種類)
1912年	Tenny	大規模で継続的な新聞内容の調査を行うことにより，正確度において气象台にも比較しうるような「社会的天候」の記録体制を確立することを提案した。
1913年	Markov	シンボル連鎖に関する理論に基づき，プーシキンの韻文小説「エベゲニー・オネーギン」の一部を統計学的に分析。
1920年	Hale	(文体的特長を発見するために)：ウイリソンの文体の特徴。
1920年代		読みやすさの研究：素材に含まれていることばを標準単語表によって分類。
1924年	Landis and Bart	481の会話事例：(分析単位)(内容分析の概念)
1924年	Landis and Burt	人々の会話の分析(内容の効果)(関心の焦点をはっきりさせるために)
1924年	White	四分の一世紀の新聞記事内容の調査によって，事実に対する渴望が示された。(新聞の量的分析)
1926年	Willey	週刊誌と新聞の比較研究(新聞の量的分析)
1926年	Willey	週間新聞の分析：(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー：コミュニケーションの形式
1926年		アメリカ新聞の内容の研究
1927年	Laswell	第一次世界大戦における宣伝技術の研究(内容の特性に関する研究)
1929年	Rainoff	主要雑誌の話題に反映される研究動向の調査(物理学の研究について)(初期の内容分析)

(次項へ続く)

1929年：文献内容の分析(ドイツとフランスの物理学の分析)(学問の発展を跡づけるために)
1930年：Becker：社会学の研究：(初期の内容分析)
1930年：Hayworth：大統領演説の研究。(文体的特長を発見するために)
1930年：Price：427の教科書の分析：(分析単位)(内容分析の概念)
1930年：Woodward：アメリカの新聞にのった外国ニュースの平均パーセンテージ(内容の効果)(関心の焦点をはっきりさせるために)
1930年代：ラスウエルがコミュニケーションの研究に内容分析を用いる。
1930年代：読みやすさの研究：文の長さ、単文、不定法句、前置詞節などの分析。
1932年：Becker：社会学の研究(初期の内容分析)
1932年：Brythe：中学校のアメリカ史教科書の内容について。(コミュニケーションのメディア、もしくは、レベルを比較するために)
1932年：Stevens：植物学の研究。(学問の発展を跡づけるために)
1932年：Taeuber：ミネソタの30紙についての、市場範囲内での商業関係のニュースの比率についての研究。
1932年：Taeuber：ミネソタ州の地方週刊誌は、ミネアポリスとセント・ポール両市からの距離をもとにして選ばれた：サンプリングの問題(表題)
1932年：Taeuber：号(日付)の標本の代表制を確保する条件として、内容が季節的な影響を受けるかもしれないし、しかも一年の各時期の代表を必要とする問題ならば、それを念頭において、標本を選択しなければならない：サンプリングの問題(表題)
1932年：Taeuber：地方週刊誌の研究では、各地で最も早く創刊された新聞が取り上げられた：サンプリングの問題(表題)
1932年：Tompson：民話の項目にテーマ単位を設定する：(言及単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1932年：長い期間に継続的に起こった変化を、ただ記述しただけの研究もある：サンプリングの問題(傾向比較)
1933年：Hart：出版物のコミュニケーション内容(内容のうけとり手)(大衆の態度や関心や価値をつかむために)
1933年：Hart：大衆雑誌の選択的分析(内容のうけとり手)(大衆の態度や関心や価値をつかむために)
1934年：Palmer：(文体的特長を発見するために)：アリストテレスの修辞術における論破の型。
1934年：Palmer：演説に使用された論破の型の研究(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー工夫(修辞学的内容の分類)
1934年：Simpson：黒人がフィラデルフィアの新聞にどのような形で現われているかの研究：(初期の内容分析)
1934年：Woodward：ニュース項目は分類単位。記事欄の長さが計数単位。(内容分析の単位)
1934年：Woodward：社会学での調査研究や世論研究「世論研究技術としての量的新聞分析」：(初期の内容分析)
1935年：Dales：マス・メディアにおけるフィクションの材料における関心領域の決定(内容の効果)(関心の焦点をはっきりさせるために)
1935年：Grey and Leary：読みやすさの研究：単語単位(内容分析の単位)(単語)
1936年：Runion：講演の文体に関する研究。(文体的特長を発見するために)
1936年：Runion：使われた語法のカテゴリー：(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー：工夫(修辞学的内容の分類)
1936年：Martin：米国、英国、その他のヨーロッパ諸国の児童向け出版物でナショナリズムはどのように表現されているか(初期の内容分析)
1937年：Dale：ニュース映画をフィート単位で分析した。(物理的単位)：(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1937年：Kingsburry and Hart：社会的なニュースへの関心(コミュニケーションのメディア、もしくは、レベルを比較するために)
1937年：McDiarmid：30の大統領演説の分析：(初期の内容分析)
1937年：Punke：出版の傾向分析：(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー：コミュニケーションの形式
1937年：Shuman：4022の広告コピー：(分析単位)(内容分析の概念)
1937年：プロパガンダ分析研究所によれば、宣伝活動家は、レッテル貼り、華麗な言葉による普遍化などの技術を用いている。：(プロパガンダ分析)
1938年：Abig：(内容の特性：コミュニケーション内容における傾向の記述のために)「内容研究のもっとも貴重な用途は、内容が示す変化と傾向との指摘にある。
1938年：Albig：ラジオ内容の研究：(内容分析のカテゴリー)：コミュニケーションの形式
1938年：Albig：ラジオ内容を話題のカテゴリーごとに記事量を計測するアプローチ(新聞の量的分析)
1938年：Foster：8039の新聞社説の分析：(分析単位)(内容分析の概念)
1938年：Foster：サンプリングの選択として、地域別に行われ、教育を扱った社説の研究には、国内のいろいろな地方の新聞が用いられた：サンプリングの問題(表題)
1938年：Foster：新聞の選択が発行部数で選ばれた：サンプリングの問題(表題)
1938年：Lasswell：精神分析のインタビューへの客観性(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1938年：Walworth：米国の歴史の教科書の中で、自国の戦争がどのように扱われているか。(初期の内容分析)
1939年：Guttinger,F. :Distribution of space in British and Swiss newspapers,Polit. Quart.10,428-441.(別々の内容の間での比較)スイスとイギリスの新聞の内容比較
1939年：Laswell and Blumenstock：内容データからの効果の推論：シカゴでのプロパガンダが示した有効性に関する研究(内容の効果)(コミュニケーションに対する態度上、行動上の反応を検討するために)
1939年：Lee and Lee：カフリンの演説に対するプロパガンダ分析(内容分析のカテゴリー)(修辞学的内容の分類)
1939年：McCurdy：D.H.ロレンスの小説の分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1939年：Wright and Nelson：コミュニケーション内容の情緒的要素はかなりポピュラーな分析カテゴリーであるが、普遍的に満足できる指標を考え出そうという試みはすべて成功していない。(内容分析のカテゴリー)
1940年：Allport and Faden：コーダー間の意見の一致度：信頼度の問題
1940年：Allport and Faden：カテゴリーの志向について(内容分析のカテゴリー)
1940年：Alport：元情報と新聞記事の最終形態との差異：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1940年：Broder：精神分裂病患者の指標としての形容詞/動詞出現比：(指標と徴候)(推論の利用と種類)
1940年：Fries：(文体的特長を発見するために)：アメリカ英語の標準語と俗語の文法的構造の分析。
1940年：Walworth：アメリカの教科書とその敵国の教科書とのついで戦争についての扱い方の比較：サンプリングの問題(別々の内容の間での比較)
1940年代：プロパガンダ分析を専門とする2つの重要な研究組織の設立。『戦時コミュニケーション研究実験部門』『米連邦通信委員会の外国放送情報部』(プロパガンダ分析)

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1941年: Lasswell(内容分析の単位)(単語)
1941年: Arnheim and Bayne: 800のラジオ番組ニュース: (分析単位)(内容分析の概念)
1941年: Arnheim and Bayne: 外国語常用者むけのラジオ番組の分析(内容分析のカテゴリー)(コミュニケーションの形式) (サンプリングの問題)
1941年: Bartlett: ラジオ内容の研究: (内容分析のカテゴリー): コミュニケーションの形式
1941年: Bruner: アルトマルク事件に関する戦時放送プロパガンダの研究(内容分析のカテゴリー)何をいうかカテゴリー: 権威(このカテゴリーは源泉ともよばれる)
1941年: Bruner: 北米向ドイツ放送の研究: サンプリングの問題(内容)
1941年: Lasswell: 「関心についての国際調査」(統語的単位)(単位を定義する方法): 分析デザインの設計論理
1941年: Regeres: 外国ニュースの各地方紙での扱われ方: サンプリングの問題(表題)
1941年: Waples and Berelson: コミュニケーション内容の情緒的要素はかなりポピュラーな分析カテゴリーであるが、普遍的に満足できる指標を考案出そうという試みはすべて成功していない。(内容分析のカテゴリー)
1941年: Waples and Berelson: (内容分析の定義)体系的な内容分析は、読者や聴衆者に向けられた刺激の、性質や相対的な強度を客観的に示せるように、いささかいい加減になされている内容の記述を、より精密にするねらいをもつ。
1941年: Waples and Berelson: 1940年の大統領選挙運動の研究(内容の特性に関する研究) (内容分析のカテゴリー)
1941年: ラスウェル: 諸国の新聞の動向に関する研究: (動向)システム: (推論の利用と種類)
1941年: ラスウェル: 「関心についての国際調査」(内容分析の一般化)
1942年: Lasswell(内容分析の単位)(単語)
1942年: Allport: 心理学的な記録の数量的分析に関する回顧。(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1942年: Baldwin: ある作家によって使用された概念の認知的ネットワーク: (オーダー): データ言語
1942年: Baldwin: 文章からの人格構造分析 (個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長の発見)
1942年: Berelson: 政治的議論におけるカテゴリーの出現頻度(内容の効果)(コミュニケーションに対する態度上、行動上の反応を検討するために)
1942年: Geller et al.: 記録単位における特性の記述(文、パラグラフ、記事全体が文脈単位となる): (文脈単位)
1942年: Allport, Gordon W.: The use of personal documents in psychological science. New York: Social Science Research Council.
1942年: Hamilton: プロテスタント牧師の説教の分析(内容分析の単位) (命題)
1942年: Holsti: 数量化単位に関する研究: (文脈単位)(分析デザインの設計論理)
1942年: Jacob: コミュニケーション内容の情緒的要素、分析カテゴリーの指標についての研究。(内容分析のカテゴリー)
1942年: Jones: マス・メディアにのるフィクション的材料における関心領域の決定(内容の効果)(関心の焦点をはっきりさせるために)
1942年: Jones: (内容分析のカテゴリー): 特徴カテゴリーの使用(短編小説、連続ラジオドラマ): カテゴリー: 特徴
1942年: Waples and Berelson: 命題の要素分析(内容分析の単位)(命題)
1942年: Jones: 映画の分析(内容分析の単位)(人物)
1942年: Lasswell: 文脈単位(内容分析の単位)
1942年: Lasswell: 事実発言、選取発言、同一視発言の3つの分類、方向分類の基礎: (内容分析のカテゴリー)(発言の形式) (基盤)
1942年: Lasswell: 命題(内容分析の単位)(命題)
1942年: Leites and Pool: 主題についての主張: 主張と命題(内容分析の単位)(命題)
1942年: Leites and Pool: 能力の状態: 個人的特性や心理学的特徴を含む(内容分析のカテゴリー)
1942年: ニュースの尻切れトンボや反復の研究(朝刊紙と夕刊紙を用いて): サンプリングの問題(表題)
1943年: Janis: (内容分析の定義)内容分析は、なんらかの技術の助けを借りて、記号ノリモノ(sign-vehicle)を分類する。内容分析の結果は、分類スキームに属する各カテゴリーごとに、記号のもしくは一群の記号の頻度を提示する。
1943年: Andrews and Muhlan: 青春期少女の個人的日記の分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1943年: Arnheim: 連続ラジオドラマの分析(内容分析の単位)(人物)(関心の焦点) (内容分析のカテゴリー)
1943年: Flesch: 読みやすさの研究: 読みやすさの3要素(文の長さ、個人への言及、接尾語・接頭語)の抽出。
1943年: Herma, Kris and Shor: フロイトの夢の理論の学的貢献に関する研究(内容の効果)(コミュニケーションに対する態度上、行動上の反応を検討するために)
1943年: Kaplan and Goldsen: (内容分析の定義) 内容分析は、ある内容に関連した個別的な仮説に対し、適切なデータを作るよう工夫されたひとつのカテゴリー体系を用いて、その内容を数量的に分類することを目的とする。
1943年: Lowenthal: 伝記記事の分析(内容分析の単位)(人物)
1943年: Lowenthal: 特徴カテゴリーの使用(短編小説、連続ラジオドラマ)(内容分析のカテゴリー)
1943年: Lowenthal: ある期間の2時点を選んで、そこで変化をつかもうとする: サンプリングの問題(傾向比較)
1943年: Miles: (文体的特長を発見するために): いろいろな時代の文体の型。
1943年: Stewart: 新聞での人種間の取り扱いを、技術面で比較した: サンプリングの問題(傾向比較)
1943年: Stewart: 表現技術の扱われ方: サンプリングの問題(内容)
1944年: Kris and Speier: 思想(内容分析の単位)(命題)
1944年: Lazarsfeld: 個人面接や記録観察に関する回答の体系的・客観的分析(コミュニケーションのメディア、もしくは、レベルを比較するために)
1944年: Loeventhal: 大衆雑誌において何が英雄とされてきたかの変遷をたどった: (動向)システム: (推論の利用と種類)
1944年: Lorge: 読みやすさの研究: 読みやすさを直接に表現する公式をまとめた。
1944年: Waples and Berelson: 議論: (内容分析の単位)(命題)
1944年: Yule: 文学に関する多くの探索的分析(統語的単位)(単位を定義する方法): 分析デザインの設計論理
1945年: Shanas: アメリカの社会学の関心(学問の発展を跡づけるために)
1945年: Sussman: ラジオのニュース番組における労働問題の取り上げ方を論じた例(コミュニケーションのメディア、もしくは、レベルを比較するために)

(次項へ続く)

1946年: Berelson B. and Salter, Patricia.: Majority and minority Americans: An analysis of magazine fiction.: Publ. Opin. Quart. 雑誌小説における少数集団と多数集団の取り扱いぶりの研究(ひとつの内容の中での比較)
1946年: Child, Potter and Levin: 主題(内容分析の単位)(命題)
1946年: Berelson and Salter: 雑誌小説の分析の中での人物と種目との関連: 単位の相互関連(内容分析の単位)
1946年: Lasswell: プロパガンダの存在の発見(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: Berelson and de Grazia: イギリスの戦略に対する分析(内容分析の単位)(命題)
1947年: Berelson and de Grazia: 内容の符号に関する研究(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: Berelson and de Grazia: 二国間のラジオ宣伝の符号ぶりの比較: サンプルングの問題(べつべつの内容のあいだでの比較)
1947年: Berelson, B. and De Grazia, S.: Detecting collaboration in propaganda. Publ. Opin. Quart., 11, 244-253.(別々の内容の間での比較)2国間のラジオ宣伝の符号ぶりの比較.
1947年: Deutsh: チャールズ・キングスレーの「水の子」の分析。(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: Dollard and Mowrer: 学習理論における話し手の不快の指標:(指標と徴候): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1947年: Dollard and Mowrer, 1947: 臨床心理的な推測に関する研究:(統語的単位)(単位を定義する方法)(分析デザイン)
1947年: Gottlieb, Lillian: Radio and newspaper reports of the Heirens murder case. Journalism Quart., 24, 97-108.(別々の内容の間での比較)同じ事件を扱う場合のラジオと新聞のセンセーションナリズムの比較.
1947年: Hatch and Hatch: ニューヨークタイムズの日曜版の結婚記事に関する研究:(系統抽出法): サンプルング方法
1947年: Jones: 芸術作品の分析(ハムレット)(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: Kracauer: 本来的に質的なデータを量的に把握することへの信頼に対する疑問:(プロパガンダ分析)
1947年: Kracauer: ドイツ映画の研究: 技術上の諸問題
1947年: Kriesberg: ソビエトでの肯定的になる一連の事件と、否定的になる一連の事件に関する研究: サンプルングの問題(表題)
1947年: Kris and Leites: 基本的カテゴリーの分類:(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー: 発言の形式
1947年: Lewin: ドイツ, アメリカの資料の違い.(学問の発展を跡づけるために)
1947年: McCurdy: シャルロット・ブロンテの小説の解析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: White: リチャード・ライトの「黒い少年」の分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1947年: White: 価値研究:(内容分析の一般化)
1948年: Dale and Chall: 読みやすさの研究: 単語単位(内容分析の単位)(単語)
1948年: Groth: コミュニケーション内容に対する実証的探求の歴史
1948年: Ash: 50種類の定期刊行物に関する内容分析(コミュニケーションのメディアもしくは, レベルを比較するために)
1948年: Ash: 労働法に対する意見の分析: 基準(評価):(推論の利用と種類)
1948年: Berelson and Lazarsfeld: コミュニケーションの明確な内容の記述: 意味論的妥当性: 妥当性
1948年: Berelson and Lazarsfeld: 200年前の文献から, 「憲法承認をめぐる争いの真髄は, 敵の教条はこうだと互いに言い合う皮肉の中におそらくもっともよく反映されている」と言っている:(新聞の量的分析)
1948年: Cahnman: 号(日付)の標本の選択方法に関する研究.
1948年: Cahnman: 系統抽出による内容分析方法: サンプルング方法(系統抽出法)
1948年: Dale and Chall: 読みやすさの研究: 単語数と文章の平均の長さにもとづく分析.
1948年: Flesh: 読者にとっての読みやすさ:(指標と徴候): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1948年: Flesh: テキストや教材の読解過程(内容分析の一般化)
1948年: Flesh: 信頼性に関する研究:(統語的単位)(単位を定義する方法): 分析デザインの設計論理
1948年: Fresh: 読みやすさの尺度(指標と徴候): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1948年: Harris and Lewis: このカテゴリーは性質という(内容分析のカテゴリー)
1948年: Kanzer: ドストエフスキーの作品の分析(個人と集団の心理状態の決定)(文体的特長の発見)
1948年: Kris: 芸術作品の分析(ハル王子)(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1948年: Lazarsfeld et al.: 内容分析のデータがより大きな研究プロジェクトの一部となってきた:
1948年: McGranahan and Wayne: 成功するドラマの研究(内容のうけとり手)(大衆の態度や関心や価値をつかむために)
1948年: McGranahan and Wayne: ポピュラーなドラマの研究(学問の発展を跡づけるために)
1948年: McGranhan and Wayne(内容分析のカテゴリー): 特徴カテゴリーの使用(短編小説, 連続ラジオドラマ): 特徴
1948年: Ojemann: 育児記事の分析.
1949年: Acheim: 傑作小説とそれを脚色した映画との比較(コミュニケーションのメディア, レベルを比較するために)
1949年: Asheim, L.: From book to film: A comparative analysis of the content of selected novels and the motion pictures based upon them. Unpublished doctor's dissertation, Univ. of Chicago.(別々の内容の間での比較)
1949年: Baker: ラジオ内容の研究:(内容分析のカテゴリー)どんなにいうかカテゴリー: コミュニケーションの形式
1949年: Baker: ラジオ番組編成の研究では, いろいろの出力と放送網の放送局が選ばれた. : サンプルングの問題(表題)
1949年: Grey, Kaplan and Casswell: シンボル表の信頼度: 信頼度の問題
1949年: Grey, Kaplan, and Lasswell: コミュニケーション内容の決定に関する要因のコントロール: サンプルングの問題(表題)
1949年: Kaplan and Goldsen: 強者と弱者のカテゴリー(内容分析のカテゴリー): 何をいうかカテゴリー: 基準(基準)
1949年: Janis, Irving L.: The problem of validating content analysis. In Harold D. Lasswell, Nathan Leites, & Associates, Language of politics: Studies in quantitative semantics (pp. 55-82). New York: George W. Stewart, Publisher, Inc.
1949年: Kaplan and Goldsen: 信頼度の実験的研究: 信頼度の問題
1949年: Lasswell: ラスウェルのテスト(符号度, 特殊性等について)(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長の発見)
1949年: Lasswell et al.: Language of politics: Studies in quantitative semantics. New York: George W. Stewart, Publisher. (内容分析の方法)
1949年: Lasswell: (内容分析の単位)(命題)
1949年: Leites and Pool: 内容外の重要な基準に従い, いろいろな長さの期間を選定し, その期間ごとと変化をみる研究: サンプルングの問題(傾向比較)

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1949年：Loenthal：クヌト・ハムスンがもつ潜在的なファシズム傾向の分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1949年：Mintz：1941年からの半年間のブラウダからの記事を選択して扱った研究：サンプリングの問題(表題)
1949年：Royal Commision：石炭国営省発足第1年の業績進歩の研究(コミュニケーションのメディア、レベルの比較)
1949年：Shannon and Weaver：情報理論：マルコフの業績に影響を与えている。
1949年：The sociology of literature in W.Schramm(Ed.), Communications in modern society.Urbana,Ill.:Univer.of Ill. Press.(ある期間内での2時点を選び、変化をみる研究)(傾向比較)
1949年：Wormhondt：詩の分析：(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1949年：Yakobson and Lasswell：ソビエト同盟におけるメーデー・スローガンの宣伝内容に関する研究。
1949年：ラスウェル：内容分析と法的問題：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1949年：純信頼度の研究：信頼度の問題
1950年：Abt and Bellak：投射法に内容分析を使用した際の概観(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1950年：Asheim：映画化されたものと原作の相違の分析：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1950年：Bales：集団の交互作用の分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長の発見)
1950年：Bales：相互行為過程(言葉)の分析：(パターン)システム：(推論の利用と種類)
1950年：Bales：相互作用カテゴリーの体系：(内容分析のカテゴリー)：何をいうかカテゴリー：方法
1950年：Bales：小集団に関する相互行為過程分析(内容分析の一般化)
1950年：Barron：人種間の冗談の中の強調されている点の研究：サンプリングの問題(傾向比較)
1950年：Barron,M.L.：A content analysis of intergroup humor.Amer.sociol.Rev.,15, 88-94.(ひとつの内容の中での比較)アイランド人などの性格を材料にした冗談を分析し、どんな点が強調されているかを比較した。
1950年：Bettelheim and Janowitz：面接に対する回答者の分類(コミュニケーションのメディア、レベルを比較するために)
1950年：Bales, Robert F.：A set of categories for the analysis of small group interaction. The Bobbs-Merrill Reprint Series in the Social Sciences, S-5, 257-263. 内容分析の方法
1950年：Lasswell and Kaplan：8つの価値カテゴリー(権力、公正、尊敬、愛情、富、幸福、啓蒙、技能)：グループ分け(キューブ：立方体)：分割ラチス(格子形)：データ言語
1950年：Lerner：学術雑誌や大衆雑誌の分析(内容の効果)(コミュニケーションに対する態度上、行動上の反応を検討するために)
1950年：Lindner,：コミュニケーションの分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1950年：Walfenstein and Leites：作品(物語等)における白昼夢(内容のうけとり手)(大衆の態度や関心や価値をつかむために)
1950年：Wolfenstein and Leites：アメリカ映画のパターン(内容のうけとり手)(大衆の態度や関心や価値をつかむために)
1950年：実験的信頼度テスト：信頼度の問題
1951年：Anderson and Anderson：投射法に内容分析を使用した際の概観(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1951年：Flesch：読みやすさの研究：読みやすさと人間的興味
1951年：Flesh：テキストや教材の読解過程(内容分析の一般化)
1951年：Flesh：信頼性に関する研究：(統語的単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1951年：Leites et al.：スターリンの生誕記念日の祝辞をもとにした推論：構成概念妥当性
1951年：Leits et al.：ライツ：ハードな分析的な概念構成体が、データが生じてくる文脈に対する経験から作成されたのかについての精力的な一例：(確定性の源泉)：推論のための概念構成体
1951年：Miles：(文体的特長を発見するために)：静態語(名詞と形容詞)に対する動詞の比率：文体の分析：さまざまな種類の言葉のパターンのカテゴリー化：語のパターンと分類枠組み
1951年：Shneidman：コミュニケーションの分析：T A Tによる内容分析からの分析(個人と集団の心理状態を決定するために)(文体的特長を発見するために)
1951年：Smythe and Horton：テレビジョンの教育的内容の分析。(コミュニケーションのメディア、レベルを比較するために)
1951年：Bales, Robert F. et al.：Channels of communication in small groups. American Sociological Review, 16, 461-468.(コミュニケーションのチャンネルの研究)
1951年：White：価値だけに基づいた内容分析の体系(内容分析のカテゴリー)：基準(基盤)
1951年：プール；プロレタリアート思想の分析：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1951年：ライツ：政治関係についての言語使用は2つの異なる接近法を提供している。(確定性の源泉)：推論のための概念構成体
1951年：Flesch：読みやすさの研究：単語単位(内容分析の単位)(単語)
1952年：Berelson, Bernard：Content Analysis in Communications Research, Glencoe, IL: Free Press
1952年：Berelson：スペース等の測定：ページ数、行数、パラグラフ、時間数、フィルム尺(内容分析の単位)
1952年：Berelson：最も一般的に使われるカテゴリー：(内容分析のカテゴリー)：何をいうかカテゴリー：主題
1952年：Lasswell et al.：(統語的単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1952年：Berelson, Bernard. Content Analysis in Communication Research. New York: Free Press.
1952年：Lasswell et al.：「世界革命」が徐々に進行しつつあるという仮説の検証：(内容分析の一般化)
1952年：Lasswell：コミュニケーションにおける分析(政治上・軍事上の情報活動の分析)
1952年：Pool：19553件の論説の分析(分析単位)(内容分析の概念)
1952年：Pool：パーソナリティ構造の分析：概念構成体の諸類型：推論のための概念構成体
1952年：Stempel：新聞のサンプルサイズの比較：(サンプルサイズ)
1952年：プール：民主主義に関するシンボルの出現頻度：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1952年：ベレルソン：異星人がマスコミの記事をみてどう判断するか：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1952年：ベレルソン：定量化の強要：概念構成体の諸類型：推論のための概念構成体
1953年：Cartwright：コーディング：意味論的妥当性：妥当性：Sebeok and Orzack：チュミレス語の呪文の分析：(パターン)システム：(推論の利用と種類)

(次項へ続く)

1953年：Spiegelman et al.：一致係数：信頼性
1953年：Taylor：信頼性に関する研究：(統語的単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1954年：Klein and Maccoby：政治運動に関するニュース報道の差異(差異)システム：(推論の利用と種類)
1954年：Murray et al.：治療過程における指標：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1954年：Smythe：客観化と数量化について：(プロパガンダ分析)
1954年-1955年：Dovring：1743年のスウェーデンのジョンの歌の分析
1954年：Berelson, Bernard.：Content analysis. In Gardner Lindzey (Ed.), Handbook of social psychology (pp. 488-522). Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc. 内容分析の方法
1955年：Broom and Teece：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1955年：Auld, Frank Jr., & Murray, Edward J.：Content-analysis studies of psychotherapy. Psychological Bulletin, 52(5), 377-395.
1955年：Scott：一致係数：(信頼性のデータの標準形の場合の一致度)：信頼性
1955年：Scott, William A.：Reliability of content analysis: The case of nominal scale coding. Public Opinion Quarterly, 19(3), 321-325. 内容分析の方法
1956年：Albrecht：フィクションの内容の比較：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1956年：Newell and Simon：「論理装置」(ある問題領域における意思決定)：(言語的表象)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1956年：Nixon and Jones：異なる新聞社の記事内容の研究：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1956年：Osgood et al.：命題の研究：(言及単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1956年：Osgood et al.：「評価的主張分析」：(確定性の源泉)：推論のための概念構成体
1957年：Osgood et al.：SDの尺度の開発：(大きさと尺度)(意思決定の図式)：記録作業
1957年：Suci：人間の感情認知の3つの基本次元：(大きさと尺度)(意思決定の図式)：記録作業
1958年：McClelland：達成動機の指標としてのあるタイプ語の出現：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1958年：Sebeok and Zeps：コンピュータを利用した最初の内容分析：約4000の民話の分析：(コンピュータによるテキスト分析)
1958年：頒布促進機能からみた雑誌のカバーガールの社会的役割：(制度的過程)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1959年：Armstrong：民俗学におけるテーマ単位の利用をめぐる問題点：(言及単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1959年：Armstrong：民族学における高度の予測可能性をもつパターン：(パターン)システム：(推論の利用と種類)
1959年：Campbell and Fiske：相関分析の方法による妥当性検証：相関的妥当性
1959年：Chomsky：反応潜時，反復回数，声の大きさ等の動機付けに関する研究(指標と徴候)：(基準，監査)：(推論の利用と種類)
1959年：George：放送番組に関する概念構成体：記録作業
1959年：George：プロパガンダ分析：(プロパガンダ分析)
1959年：Pool, Ithiel de Sola, ed. Trends in Content Analysis. Urbana: University of Illinois Press.
1959年：George：本来的に質的なデータを量的に把握することへの信頼に対する疑問：(プロパガンダ分析)
1959年：Mahl：記録された会話からの不安の推測：(コミュニケーション)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1959年：Mahl：精神分析の際，患者の不安を測るものさしとしての言葉の乱れ：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1959年：Mahl：言語名称に関する研究：(言語名称)：記録作業
1959年：Osgood：名詞同士の共起：(指標と徴候)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1959年：Osgood：構成概念妥当性
1959年：Osgood：ゲッベルスの日記をページ単位でサンプリングした。：(統語的単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1959年：Osgood：コンティジェンシー分析：意味論的妥当性：妥当性：概念構成体の諸類型：推論のための概念構成体
1959年：De Sola Pool：Trends in content analysis, Urbana: University of Illinois Press.(内容分析の方法)
1959年：Osgood：ラジオ番組内容のコンティジェンシー分析：分析のテクニック
1959年：Pool：サンプリング単位を統計的に定義する「内部では分散に対する自由度は小さいが，その境界面では大きな自由度をもつ」：(サンプリング単位)：分析単位
1959年：Pool：シンボル分析(言及単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1959年：Pool：内容分析の動向(関心やアプローチ自体がばらばらであるが，ある言語的素材からその発生環境を洗練された方法で推論するという問題に関心が向けられている。
1959年：コンティジェンシー分析に対する妥当性検証の証拠：構成概念妥当性
1959年：ジョージ：第二次世界大戦中の敵国による国内向け放送からのFCCの推論についての研究：概念構成体の諸類型：推論のための概念構成体
1959年：Campbell, Donald T., & Fiske, Donald W.：Convergent and discriminant validation by the multitrait-multimethod matrix. Psychological Bulletin, 56(2), 81-105.(内容分析の方法)
1960年：Adorno：マス・コミュニケーション研究：(制度的過程)：基準(監査)：(推論の利用と種類)
1960年：Cohen, Jacob.：A coefficient of agreement for nominal scales. Educational and Psychological Measurement, 20(1), 37-46.(内容分析の方法)
1960年：Cohen：一致係数：信頼性
1960年：Hays：自動的内容分析に関するランド・コーポレーションの報告書：(コンピュータによるテキスト分析)
1960年：Herdan：文体の分析：文体の分析(統語的単位)(単位を定義する方法)：分析デザインの設計論理
1960年：ラスウェル：コミュニケーション研究の特徴：データ言語
1961年：O' Sullivan：国際関係について，理論書の中で諸変数の間にあると報告されている関係の強さを定量化しようと試みた。：(外延のリスト)：記録作業
1961年：Tannenbaum and Greenberg：ジャーナリズムの領域での研究：(初期の内容分析)
1962年：Cohen：ジョン・フォスター・ダレスの政治演説の内容比較：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1962年：Holsti：ジョン・フォスター・ダレスの政治演説の内容比較：(差異)システム：(推論の利用と種類)
1962年：Osgood：人間の感情認知の3つの基本次元：(大きさと尺度)(意思決定の図式)：記録作業
1962年：Merrill：ジャーナリズムの評価基準：基準(評価)：(推論の利用と種類)
1963年：Abelson：人間の認知に関するシミュレーション：(コンピュータによるテキスト分析)

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1963年	Berkman: 雑誌広告の中身の比較:(差異)システム:(推論の利用と種類)
1963年	Berkman: 評価研究:基準(評価):(推論の利用と種類)
1963年	Dibble: 歴史家にとって重要な推論の種類:基準(同定):(推論の利用と種類)
1963年	Green et al.: 統語論と意味論の分析:(人工知能的アプローチ)コンピュータの利用
1963年	Holsti: 行為枠の用語の編集:(言及単位)(単位を定義する方法):分析デザインの設計論理
1963年	Lindsay: 基礎英語の単純な核文の陳述:(人工知能的アプローチ)コンピュータの利用
1963年	Mosteller and Wallace: フェデラリスト・ペーパーズの著書の推論:概念構成体の諸類型:推論のための概念構成体
1963年	North, Robert C., Ole R. Holsti, M. George Zaninovich, and Dina A. Zinnes. Content Analysis: A Handbook with Applications for the Study of International Crisis. Chicago: Northwestern University Press
1963年	Newell and Simon: 問題解決に対するコンピュータ利用の研究:(コンピュータによるテキスト分析)
1963年	Stone and Hunt: 現実の自殺の手記と模擬の手記についてのコンピュータ分析:(確定性の源泉):推論のための概念構成体
1963年	Yale: 機能語とよばれる小さな埋め込み語:概念構成体の諸類型:推論のための概念構成体
1963年	モートン: 使徒書簡の著者の分析:(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1963年	ラスウェル: 政治学は、どの様に資源が政治活動者たちの間で分配されるのかについて理論を作成し、データを収集するのである。:分割ラチス(格子形):データ言語
1964年	Bell: 文学の内容分析からの大きな社会変化の予測:(制度的過程):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Berelson and Steiner: 社会科学および行動科学における科学的研究成果1025の目録の作成:(確定性の源泉):推論のための概念構成体
1964年	Budd: 注目測度について:(変数):データ言語
1964年	Fresh: 読みやすさの尺度(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Gerbner: イデオロギー的なバイアスの分析:(言及単位)(単位を定義する方法):分析デザインの設計論理
1964年	Gieber: 報道と製作ニュースの政策過程の差異:(制度的過程):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Krendel: 苦情の手紙から算定された市民の不満度:(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Mosteller and Wallace: ある著作の著者を決定するための指標:(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Mosteller and Wallace: 文学に関する多くの探索的分析(統語的単位)(単位を定義する方法):分析デザインの設計論理
1964年	Paisley: 署名のない文書の著者の推論:概念構成体の諸類型:推論のための概念構成体
1964年	Pool et al.: 一連の認知過程のシミュレーションの政治運動への適用:(言語的表象):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Seltiz: 実用的妥当性:妥当性
1964年	White: ゲートキーピングのメカニズム:(制度的過程):基準(監査):(推論の利用と種類)
1964年	Wright: 内容分析に対する制度的アプローチ:(制度的過程):基準(監査):(推論の利用と種類)
1965年	Allport: 個人的な書簡の分析による著者の世界観、心理状態に関する推測:(言語的表象):基準(監査):(推論の利用と種類)
1965年	Ellison: 作家の作品における構成要素の利用:(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1965年	Garbner: 文化指標(テレビのフィクション番組の分析):(内容分析の一般化)
1965年	Jains and Fadner: 「不均衡係数」(態度基準の研究):(初期の内容分析)
1965年	Janis: 内容分析の定義(内容分析とは、(A)分析者の判断が科学的観察者の報告とみなされるという条件で、(B)どの記号一媒体がどのカテゴリーに入るのかについて一人の分析者あるいは一群の分析者たちの判断にだけ依存している)
1965年	Janis: 記号-媒体の分類:意味論的妥当性:分析者の仕事と意味内容の推測:相関的妥当性:妥当性検証
1965年	Kaplan and Goldsen: 信頼性の重要さは、データが測定行為、測定手段、測定者から独立に獲得されるという保証に依存している。信頼性のあるデータは、定義上、測定過程上の変化にかかわらず、一定であるようなデータである。(信頼性)
1965年	Klir and Valach: コンピュータに貯蔵されているテキストの意味論的ネットワーク:データ言語
1965年	Lasswell et al.: マスコミにおけるサンプリングや尺度に関する基礎的検討:(プロパガンダ分析)
1965年	Lasswell: 第二次世界大戦中の国内のニュース源の中にある対外宣伝の探知:(仮説の検証のシミュレーション):記録作業
1965年	Lynch: 言葉による街の地図の作成:(言語的表象):基準(監査):(推論の利用と種類)
1965年	ラスウェル: シンボルの数量化が科学的洞察の唯一の基礎(プロパガンダ分析)
1965年	ラスウェル: 内容分析における量的な問題(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1965年	Janis and Fadner: 好意的な記事と非好意的な記事の不均衡係数の算出:基準(評価):(推論の利用と種類)
1965年	Heiss, David R.: Semantic differential profiles for 1,000 most frequent English words. Psychological Monographs: General and Applied, 79(8), Whole No. 601, 1-31.
1966年	Dunphy: KWICによる出力:意味論的妥当性:妥当性
1966年	Holsti: 語彙にタグのついた辞書を開発:コンピュータの利用
1966年	Lorr and McNair: 心理療法における内容分析の使用の要約:(訓練):記録作業
1966年	Merrit: 感情の表れに関するテーマにおける地名の使用度:信頼性
1966年	Morton and Levinson: ギリシャ人の作品の分析(7つの識別要素の抽出:①文の長さ,②定冠詞,③三人称代名詞,④to be,⑤and,⑥but,⑦in):(指標と徴候):基準(監査):(推論の利用と種類)
1966年	Sedelow and Sedelow: 計量文体学の基礎:(コンピュータによるテキスト分析)
1966年	Colby, B. N.: The Analysis of Culture Content and the Patterning of Narrative Concern in Texts. American Anthropologist 68:374-388.
1966年	Stone et al.: ジェネラル・インクワイアラー・システムのプログラムの実行(コンピュータによるテキスト分析)
1966年	Stone et al.: playという単語に対するKWICの一覧表示:コンピュータの利用
1966年	Stone et al.: 教科書に使われた単語のカテゴリー化:基準(同定):(推論の利用と種類)
1966年	Stone et al.: 精神分析, 心理学, 歴史学, 人類学, 教育学, 文献学, 作品分析, 言語学への内容分析の適用:(推論の利用と種類)
1966年	Stone et al.: 内容分析は、テキストにおけるある特定の特徴を、体系的にかつ客観的に同定することにより、推論を行う調査技法である。:(内容分析の概念)
1966年	Stone et al.: 内容分析への辞書的なアプローチ:コンピュータの利用

(次項へ続く)



1966年: Webb et al.: 多元的操作主義の基礎:(分析デザインのタイプ): 分析デザインの設計論理
1966年: Stone, Philip J. et al.: The general inquirer: A computer approach to content analysis. Cambridge, MA: The M.I.T. Press.
1966年: Stone, P. J. et al.: The General Inquirer: A Computer Approach to Content Analysis. Cambridge: MIT Press.
1966年: Stone, Philip J., Dexter C. Dunphy et al.: The General Inquirer: A Computer Approach to Content Analysis. Cambridge, MA: MIT Press.
1967年: Budd, Richard W. et al.: Content analysis of communications. New York: The Macmillan Company. (コミュニケーション内容分析の方法)
1967年: Budd, Richard. Content Analysis of Communications. New York: Macmillan Company. (コミュニケーション内容分析の方法)
1967年: Katz et al.: 制度に対する期待に関する研究:(制度的過程): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1967年: Katz et al.: テーマ分析(言及単位)(単位を定義する方法)(分析デザインの設計論理)
1967年: Krippendorff: 概念構成体の洗練:(確定性の源泉): 推論のための概念構成体
1967年: Sedelow: シソーラス的なアプローチ法: コンピュータの利用
1967年: Sedelow: 語彙を類義語的な見出しによって分類することの必要性: コンピュータの利用
1967年: Webster: 変数とは「変動することが可能な,あるいは変動する傾向がある, 可変なもの」:(変数): データ言語
1967年: Budd, Richard W. et al.: Content Analysis of Communications. New York: Macmillan.
1967年: Borke, Helene.: The communication of intent: A systematic approach to the observation of family interaction. Human Relations, 20, 13-28.
1968年: Abelson: 一連の認知過程のシミュレーション:(言語的表象): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1968年: Cohen, Jacob.: Weighted kappa: Nominal scale agreement with provision for scaled disagreement of partial credit. Psychological Bulletin, 70(4), 213-220.(内容分析の方法)
1968年: Ekman and Friesen: フィルム(データシート): 記録作業
1968年: Ekman and Friesen: 最小の記録単位として映画の一面を用いた.:(物理的単位)(単位を定義する方法): 分析デザインの設計論理
1968年: Klausner: 面接状況のシミュレーション(面接のシミュレーション): 記録作業
1968年: ベレルソン,B.&スタイナー,G.A. 犬田充訳:『行動科学』,誠信書房.
1968年: Weik: 時間の単位(放送を1分単位で分析):(物理的単位)(単位を定義する方法): 分析デザインの設計論理
1969年: Cerbner et al.: 米国における研究・教育上の内容分析の利用の現状報告の成果の要約:(コンピュータによるテキスト分析)
1969年: Garbner: メッセージ・システム分析とは, 次の4つの一般の関心に関して推論を行う. (1)要素の出現頻度(2)構成要素の優先順位(3)構成要素の評価的特性(4)構成要素間の距離的論理的関係:(差異)システム:(推論の利用)
1969年: Rowney, Don Karl, & Graham, James Q. Jr.: Quantitative history: Selected readings in the quantitative analysis of historical data. Homewood, IL: The Dorsey Press.
1969年: Holsti, Ole R.: Content analysis for the social sciences and humanities. Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company.(内容分析の方法)
1969年: Gerbner, George, Holsti, Ole R., Krippendorff, Klaus et al.: The analysis of communication content: Developments in scientific theories and computer techniques. New York: John Wiley & Sons, Inc.(コミュニケーションの内容分析の方法)
1969年: Gottschalk, Louis A., & Gleser, Goldine, C.: The measurement of psychological states through the content analysis of verbal behavior. Berkeley, CA: University of California Press.
1969年: Hays: 意味論的解釈に関する研究: 概念構成体の諸類型: 推論のための概念構成体
1969年: シュラム,W.編: マスコミュニケーション・マスメディアの総合的研究(学習院大学社会学研究室編訳), 東京創元社.
1969年: Borke, Helene.: The communication of intent: A revised procedure for analyzing family interaction from video tapes. Journal of Marriage and Family, 31, 541-544.
1969年: Hays: 計算機言語学の最近の発展に関する論述: 社会学者が関心を示す典型的な言語的データ, 談話の内容分析における論理的構造, コンピュータの利用(言語的表象): 基準(監査):(推論の利用と種類)(人工知能的アプローチ)
1969年: Holsti: 「記録単位は, 内容のある一定のカテゴリーに分類することによって特徴づけられるような, 特定の内容部分」:(記録単位): 分析デザインの設計論理
1969年: Gerbner, George, Oli Holsti, Klaus Krippendorff, William Paisley, and Philip J. Stone, eds. The Analysis of Communication Content: Developments in Scientific Theories and Computer Techniques. New York: John Wiley and Sons.
1969年: Janda: マイクロフィルムの活用, 文章全体の検索単位について: コンピュータの利用
1969年: Janda: 磁気テープ:(データシート): 記録作業
1969年: シャノン, C.E.&ウィーバー,W.『コミュニケーションの数学的理論』(長谷川淳・井上光洋訳), 明治図書.
1969年: Janowitz, Morris.: Content analysis and the study of the "symbolic environment." In Arnold A. Rogow (Ed.). Politics, personality, and social science in the twentieth century: Essays in honor of Harold D. Lasswell (pp. 155-170). Chicago: University of Chicago Press.
1969年: Baker, Robert K., & Ball, Sandra J.: Mass media and violence (Vol. IX). A Report to the National Commission on the Causes and Prevention of Violence.
1969年: Krippendorff: 正当性検証性: 妥当性
1969年: Krippendorff: 次の要素が概念枠組みを決定する. つまり, ①分析者の手にゆだねられたデータ②データの文脈③分析者の知識による現実の文節化④内容分析の目標⑤基本的な知的課題としての推論⑥結果の成否の最終的基準としての妥当性
1969年: Pool, Ithiel de Sola.: Trends in content analysis. Urbana, IL: University of Illinois Press.(内容分析の方法)
1969年: Krippendorff: 意味論的解釈に関する研究: 概念構成体の諸類型: 推論のための概念構成体
1969年: Lapoport: システム理論のための基礎を準備した(適切な構成要素, 関係, 相互作用の法則):(システム)(推論の利用と種類)
1969年: Rapoport: 反応動機に関する研究:(指標と徴候): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1969年: Rapoport: 医学における徴候:(指標と徴候): 基準(監査):(推論の利用と種類)
1969年: ブラウワーら: 信頼性の検討: データの信頼性と基準
1969年: ホルスティ: 送り手と受け手の間のコミュニケーション文脈内にデータを位置づけた.

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1969年	Deese, James. : Conceptual Categories in the Study of Content. In The Analysis of Communication Content: Development in Scientific Theories and Computer Techniques. George Gerbner, Ole R. Holsti, Klaus Krippendorff, William J. Paisley, and Philip J. Stone, eds. 39-56. New York: Wiley.(コミュニケーションの内容分析)
1970年	Krendel : 市役所に充てられた苦情の手紙の数や種類 : (指標と徴候) : 基準(監査) : (推論の利用と種類)
1970年	Krippendorff, Klaus. : Bivariate agreement coefficients for reliability of data. In Edgar F. Borgatta & George W. Bohrnstedt, (Eds.), Sociological methodology (pp. 139-150). San Francisco: Jossey-Bass Inc., Publishers. (内容分析の方法)
1970年	Krippendorff : 価値の表出に関する体系的な定義群 : 意味論的妥当性 : 妥当性
1970年	Krippendorff : 媒介的社会過程としてのコミュニケーションを研究するにあたっては、情報の流れを追跡できる強力なデータ言語が必要(データ言語)
1971年	Burke, Colin B. : A note on self-teaching, reference tools, and new approaches in quantitative history. Historical Methods Newsletter, 4(2), 52-61.(内容分析の方法)
1971年	Bretz, Rudy. : A taxonomy of communication media. Englewood Cliffs, NJ: Educational Technology Publications.
1971年	Carney, T. F. : Content analysis: A review essay. Historical Methods Newsletter, 4 (2), 52-61.
1971年	Fleiss, Joseph L. : Measuring nominal scale agreement among many raters. Psychological Bulletin, 76(5), 378-382. 内容分析の方法
1971年	Wurtzel, Alan H., & Dominick, Joseph R. : Evaluation of television drama: Interaction of acting styles and shot selection. Journal of Broadcasting, 16(1), 103-110.
1971年	Dollar, Charles M., & Jensen, Richard J. : Historian's guide to statistics: Quantitative analysis and historical research. New York: Holt, Rinehart and Winston, Inc.AH (歴史に関する質的研究の方法)
1972年	Carney, Thomas. Content Analysis: A Technique for Systematic Inference from Communications. Winnipeg: University of Manitoba Press. (内容分析の方法)
1972年	Carney, T. F. Content Analysis: A Technique for Systematic Inference from Communications. Winnipeg: University of Manitoba Press.
1973年	Nemenwirth : 米国の政党綱領における価値観の変化 : (動向)システム : (推論の利用と種類)
1974年	Krippendorff : 文脈的分類法を用いた : 分析のテクニック
1975年	Iker : 心理療法の面接データを内容分析するためのシステムの開発 : コンピュータの利用
1975年	Beale, John.:A preliminary model for the examination of intention through content analysis. Communication Research, 2, 86-96. (内容分析の方法)
1975年	Kelly, Edward F.et al. : Computer recognition of English word senses. Amsterdam: North-Holland Publishing Company.
1976年	Ertel : 2つの語彙クラスの出現頻度に基づく「ドグマティズム尺度」の開発 : コンピュータの利用
1976年	Gerbner, George et al.: The violence profile. Journal of Communication, 26(2), 173-197.
1976年	Bartko, John J., & Carpenter, William T. Jr. : On the methods and theory of reliability. The Journal of Nervous and Mental Disease, 163, 307-317.(内容分析の方法)
1976年	Rosenberg, Stanley D., & Tucker Gary J. : Verbal content and the diagnosis of schizophrenia. Proceedings of the 129th Annual Meeting of the American Psychiatric Association.
1976年	Eco, Umberto. : A theory of semiotics. Bloomington, IN: Indiana University Press.
1977年	De Weese : 新聞紙面のオンライン分析 : コンピュータの利用
1977年	Dziurzynski : 約300種類のテレビのコマーシャルのアピールに関するクラスター分析
1977年	Gerbner and Marvanji : 外国ニュースの報道量を用いた認知地図 : (言語的表象) : 基準(監査) : (推論の利用)
1977年	Kops : サンプリングの妥当性に関する研究 : サンプリング妥当性
1977年	Reynolds : 多変量解析の利用 : 分析のテクニック
1977年	Schank and Abelson : 態度変化モデルに関する研究 : (人工知能的アプローチ)コンピュータの利用
1977年	ガーブナーら : テレビの暴力シーンに関する研究 : 分析のテクニック
1977年	Dziurzynski : クラスター分析 : コンピュータの利用
1977年	Floud, Roderick. : Quantitative history: Evolution of methods and techniques. Journal of the Society of Archivists, 5(7), 407-417. (内容分析の歴史と方法)
1978年	Denzin, N.K. : The Research Act. A Theoretical Introduction to Sociological Methods, 2d ed. New York: McGraw-Hill.
1978年	Phillips : 著名な自殺の頻度と航空機事故による死者の数の因果関係 : (分析デザインのタイプ) : 分析デザインの設計論理
1978年	Smith, Raymond G. : The message measurement inventory: A profile for communication analysis. Bloomington, IN: Indiana University Press.
1978年	Kruskal, J. B., and M. Wish. : Multidimensional scaling. Beverly Hills, CA: Sage Publications.
1978年	O'Dell, Jerry W. : Letters from Jenny revisited: The computer content analysis redone. Journal of Clinical Psychology, 34(1), 161-164.(コンピュータによるテキスト分析)
1979年	Carmines, Edward G., & Zeller, Richard A. : Reliability and validity assessment. Beverly Hills, CA: Sage Publications. (内容分析の方法)
1979年	Garfield : 科学出版物の引用の分析 : (パターン)システム : (推論の利用と種類)
1979年	Gerbner et al. : 暴力指数 : (変数) : データ言語
1979年	Gerbner et al. : 信頼性の検討 : データの信頼性と基準
1979年	Gerbner et al. : 1000時間のテレビドラマから採取した15000の登場人物 : (分析単位)(内容分析の概念)
1979年	Gerbner et al. : 活字の大きさや記事面積 : (指標と徴候) : 基準(監査) : (推論の利用と種類)
1979年	ガーブナー : テレビにおける暴力の研究 : (差異)システム : (推論の利用と種類)
1979年	Bulmer, Martin. : Concepts in the analysis of qualitative data. Sociological Review 27(4)651-677).
1979年	Blumler, Jay G. : The role of theory in uses and gratifications studies. Communication Research, 6, 9-36.
1979年	Bryant, Jennings, Hezel, Richard, & Zillmann, Dolf. : Humor in children's educational television. Communication Education, 28, 49-59.

(次項へ続く)

1979年	Spradley, James. : The Ethnographic Interview. New York: Holt, Rinehart and Winston.
1979年	Collins, W. A. : Children's comprehension of television content. In Ellen Wartella (Ed.), Children communicating: Media and development of thought, speech, understanding (pp. 21-52). Beverly Hills, CA: Sage. Publications.
1980年	Krippendorff : 多重特性一多重方法行列: 相関的妥当性
1980年	Marziali, E. A., & Sullivan, J. M. : Methodological issues in the content analysis of brief psychotherapy. British Journal of Medical Psychology, 53, 19-27. (心理療法の内容分析)
1980年	Krippendorff, Klaus. Content Analysis: An Introduction to its Methodology. Beverly Hills: Sage Publications (内容分析の研究手法の紹介)
1980年	Content Analysis: An Introduction to Its Methodology, Beverly Hills: Sage
1980年	Krippendorff, Klaus : An Introduction to Its Methodology, Sage.
1981年	Broehl, Wayne G. Jr., & Mcgee, Victor E. : Content anaysis in psychohistory: A study of three lieutenants in the indian mutiny, 1857-58. Journal of Psychohistory, 8(3), 281-306.(コンピュータによる歴史心理学の内容分析)
1981年	Rosengren, K.E. (Ed.) : Advances in content analysis. Beverly Hills: Sage Publications.(内容分析の方法)
1981年	Brennan, Robert L., & Prediger, Dale J. : Coefficient kappa: Some uses, misuses, and alternatives. Educational and Psychological Measurement, 41, 687-699.
1982年	Berger, Arthur Asa. : Media analysis techniques. Beverly Hills, CA: Sage Publications.
1983年	Weber, R.P. : Measurement Models for Content Analysis
1982年	Finn, T. Andrew, & Strickland, Donald E. : A content-analysis of beverage alcohol advertising. 2. Television advertising. Journal of Studies on Alcohol, 43, 964-989.(テレビ内容の分析)
1984年	Folger, Joseph P. et al. : Coding social interaction. In Brenda Dervin & Melvin J. Voigt (Eds.), Progress in communication sciences (pp. 115-161). Norwood, NJ: ABLEX Publishing Corporation.(出版物の内容分析)
1984年	Simonton, Dean Keith. : Melodic structure and note transition probabilities: A content analysis of 16,618 classical themes. Psychology of Music, 12, 3-16.(音楽の内容分析)
1983年	Lindenmann, Walter K. : Content analysis: A resurgent communication research technique that represents a wave of the future: The move toward a second dimension of interpretation and analysis. Public Relations Journal, 24-27.(内容分析の方法)
1985年	真鍋一史 : 世論の研究—内容分析と質問紙調査による接近, 関西学院大学社会学部研究叢書 (第3篇), 慶応通信
1986年	Weller S. & Dungy, 1986. Personal preferences and ethnic variations among Anglo and Hispanic breast and bottle feeders. Social Science & Medicine 23:539-548.
1985年	Lincoln, Yvonna S., and Egon G. Guba. : Naturalistic Inquiry. Beverly Hills, CA: Sage Publications.
1985年	Baxter, Richard L., de Riemer, Cynthia, Landini, Ann, Leslie, Larry, & Singetary, Michael. : A content analysis of music videos. Journal of Broadcasting & Electronicmedia, 29, 333-340.
1985年	Neuendorf, Kimberly. : Alcohol advertising and media portrayals. The Journal of the Institute for Socioeconomic Studies, X(2), 67-78.
1986年	Horton, Nancy Spence. : Young Adult Literature and Censorship: A Content Analysis of Seventy-Eight Young Adult Books. Denton: North Texas State University.
1987年	Notes on a semiotic approach to parade, cortege, and procession. In Time out of time, ed. Alessandro Falassi, 220-8. Albuquerque: University of New Mexico Press.
1987年	Marin, Louis. : Notes on a semiotic approach to parade, cortege, and procession. In Time out of time, ed. Alessandro Falassi, 220-8. Albuquerque: University of New Mexico Press.
1987年	イニス, H.A. 『メディアの文明史—コミュニケーションの傾向性とその循環』(久保秀幹訳, 新曜社.
1987年	Caudill, Ed. : A content analysis of press views of Darwin's evolution theory. Journalism Quarterly, 64(4), 782-786. (出版物の内容分析)
1987年	Berger, Charles R. et al. : The study of communication as a science. In Charles R. Berger & Steven H. Chaffee (Eds.), Handbook of communication science (pp. 15-19). Newbury Park: Sage Publications.
1987年	Strauss, Anselm. : Qualitative Analysis for Social Scientists. Cambridge: Cambridge University Press.
1988年	Haque, S.M. Mazharul : What is news in India? A content analysis of the Elite Press. Lanham, MD: University Press of America.
1988年	Fan, David P. : Predictions of public opinion from the mass media. New York, NY: Greenwood Press.
1988年	Groth-Marnat, Gary. : Content analysis of the dreams of dying patients. Psychology, A Journal of Human Behavior, 25(3/4), 77-83.
1988年	Weller, S.W. & A.K. Romney : Systematic Data Collection. Thousand Oaks, CA: Sage Publications
1989年	Krippendorff, Klaus. "Content Analysis." International Encyclopedia of Communications. vol. 1. Oxford University Press: Oxford.
1989年	メッセージ分析の技法—「内容分析」への招待, 三上 俊治 (翻訳), 勁草書房
1989年	Gladwin, C. : Ethnographic Decision Tree Modeling. Newbury Park, CA: Sage Publications.
1989年	Cairns, J, and Inglis, B, "A content-analysis of 10 popular history textbooks for primary- schools with particular emphasis on the role of women," Educational review 41: 221-226
1989年	Bradac, J. J. : Message effects in communication science. Newbury Park, CA: Sage Publications.
1990年	Carley, Kathleen. "Content Analysis." In R.E. Asher (Ed.), The Encyclopedia of Language and Linguistics. Edinburgh: Pergamon Press.(内容分析の方法)
1990年	Strauss, A., and J. Corbin. : Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques. Newbury Park, CA: Sage Publications, Inc.
1990年	Dominick, Joseph R. : The dynamics of mass communication (3rd ed.). New York: McGraw-Hill Publishing Company.
1990年	Breyer, Gerald et al. : Computer-aided content analysis and >>soft data<< in historical social research: An attempt to find a pragmatic solution. (コンピュータによるテキスト分析)

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1990年 : Weber, Robert Philipp : Basic content analysis. Newbury Park, CA: Sage.
1990年 : Charmaz, K. : 'Discovering' chronic illness: Using grounded theory. Social Science & Medicine 30:1161-1172.
1990年 : Bush, A. J., & Bush, R. P. : A content analysis of direct response television advertising. Journal of Direct Marketing,4,6-12.
1990年 : Strauss, A., and J. Corbin. : Basics of Qualitative Research: Grounded Theory Procedures and Techniques. Newbury Park, CA: Sage Publications, Inc
1990年 : Forrest, J., and A. Abbott. : The optimal matching method for studying anthropological sequence data: an introduction and reliability analysis. Journal of Quantitative Anthropology 2:151-170.
1990年 : Cicchetti, Domenic V. et al. : : High agreement but low kappa: II. Resolving the paradoxes. Journal of Clinical Epidemiology, 43(6), 551-558.(内容分析の方法)
1990年 : Franzosi, Roberto. : Computer-assisted coding of textual data: An application to semantic grammars. Sociological Methods and Research, 19(2), 225-257.(コンピュータによるテキスト分析)
1990年 : Weber, Robert Philip. Basic Content Analysis, Second Edition. Newbury Park, CA: Sage Publications. (信頼性, 妥当性についても述べている内容分析の紹介)
1990年 : Mathews, Holly F. and Carole Hill. : Applying cognitive decision theory to the study of regional patterns of illness treatment choice. American Anthropologist 91:155-170.
1990年 : Nimbark, A., & Davis, C. : Politics and the press: A content analysis of health news in South Africa. Gazette, 46, 1-16.
1990年 : McTavish, Donald G., & Pirro, Ellen B. : Contextual content analysis. Quality and Quantity, 24, 245-265.
1990年 : Carley, Kathleen. : Content analysis. In R. E. Asher et al. (Eds.), The Encyclopedia of Language and Linguistics, Vol. 2 (pp. 725-730). Edinburgh, UK: Pergamon Press.
1991年 : Adnan, M. H. H., Kaur, K., & Shaari, A. : A content analysis of business and economic news coverage in Malaysian newspapers. Forum Komunikasi, 2, 79-89.
1991年 : Irizarry, Estelle. : Some approaches to computer analysis of dialog in theater: Buero Vallejo's En la ardiente oscuridad. Computers and the Humanities, 25, 15-25.
1991年 : Kolbe, R. H., & Burnett, M. S. : Content-analysis research: An examination of applications with directives for improving research reliability and objectivity. Journal of Consumer Research, 18, 243-250.
1992年 : 樋口 康子 (翻訳) : グラウンデッド・セオリー —看護の質的研究のために—, 医学書院.
1992年 : Hacker, K. L., & Swan, W. O. : Content analysis of the Bush and Dukakis 1988 presidential election campaign television commercials. Journal of Social Behavior and Personality, 7, 367-374.
1992年 : Cutler, Bob D., & Javalgi, Rakshekar G. (1992, January/February). A cross-cultural analysis of the visual components of print advertising: The United States and the European community. Journal of Advertising Research, 71-80. (出版物の内容分析)
1992年 : Carley, Kathleen, & Palmquist, Michael. : Extracting, representing, and analyzing mental models. Social Forces, 70, 601-636.
1992年 : Nacos, B. L. et al. : Content analysis of news reports: Comparing human coding and a computer-assisted method. Communication, 12, 111-128.
1993年 : Miller, M. Mark. : User's Guide for VBPro: A Program for Qualitative and Quantitative Analysis of Verbatim Text. The University of Tennessee, Knoxville
1993年 : Carlson, L., Grove, S. J., & Kangun, N. : A content analysis of environmental advertising claims: A matrix method approach. Journal of Advertising, 22, 27-40.
1993年 : Dey, I. : Qualitative Data Analysis: A User Friendly Guide for Social Scientists. London: Routledge.
1993年 : Carley, Kathleen. : Coding choices for textual analysis: A comparison of content analysis and map analysis. In P. Marsden (ed.), Sociological Methodology, Vol. 23 (pp. 75-126). Oxford: Blackwell.
1994年 : Miller, J. K. : Broadcasting news in Japan: NHK and NTV. Keio Communication Review, 16, 77-103.
1994年 : Lester E. : "The collectible other and inevitable interventions: a textual analysis of Washington Post foreign reporting." Argumentation 8: 345-356
1995年 : Sandelowski, Margarete : Sample Size in Qualitative Research. Research in Nursing and Health 18:179n183.
1995年 : Gottschalk, Louis A. : Content analysis of verbal behavior: New findings and clinical applications. Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers.(言動の内容分析)
1995年 : 田中 敏 : スピーチの言語心理学モデル—音声の生産と意味処理の関係の実証的検討, 風間書房
1994年 : Nissan, Ephraim & Schmidt, Klaus (Eds.) : From information to knowledge: Conceptual and content analysis by computer. Oxford, England: Intellect.
1994年 : Weitzman, Eben A. & Miles, Matthew B. : Computer programs for qualitative data analysis: A software sourcebook. Thousand Oaks, CA: Sage. (質的データ分析のためのコンピュータプログラム)
1995年 : Barlow, MH, Barlow, DE, and Chiricos, TG, "Economic conditions and ideologies of crime in the media: a content analysis of crime news," Crime and delinquency 41 (Jan 1995): 3-19
1995年 : Shoemaker, Pamela J. & Reese, Stephen D. : Mediating the message: Theories of influences on mass media content. White Plains, NY: Longman.
1996年 : Foster, Donald W. : "Response to Elliot and Valenza, 'And Then There Were None'," Computers and the Humanities 30 : 247-256
1996年 : Evans, W, "Computer-supported content-analysis - trends, tools, and techniques," Social science computer review 14 : 269-279
1996年 : Fink, E. J., & Gantz, W. : A content analysis of three mass communication research traditions: Social science, interpretive studies, and critical analysis. Journalism & Mass Communication Quarterly, 73, 114-134.
1996年 : Carletta, Jean. : Assessing agreement on classification tasks: The kappa statistic. Computational Linguistics, 22(2), 249-254. 内容分析の方法
1996年 : Barron, Ann E., Thompkins, Brendan, & Tai, David. : Design guidelines for the world wide web. Journal of Interactive Instruction Development, 8(3), 13-17.(インターネットでの内容分析)

(次項へ続く)

1996年	: Elliott, Ward E. Y., and Valenza, Robert J. : "And Then There Were None: Winnowing the Shakespeare Claimants," <i>Computers and the Humanities</i> 30: 191-245
1996年	: Frankfort-Nachmias, Chava. <i>Research Methods in the Social Sciences</i> . 5th ed. St. Martin's Press: New York. (社会科学調査における内容分析の方法について)
1996年	: Dowling, GR, and Kabanoff, B : "Computer-aided content analysis: what do 240 advertising slogans have in common?," <i>Marketing letters</i> 7.
1996年	: Jehn, K. & Doucet. : Developing categories from interview data: Text analysis and multidimensional scaling. Part I. <i>Cultural Anthropology Methods Journal</i> 8(2):15-16.
1996年	: Irurita, V. F. : Hidden Dimensions Revealed Progressive Grounded Theory Study of Quality Care in the Hospital. <i>Qualitative Health Research</i> 6:331-349.
1996年	: 北 研二 : 音声言語処理—コーパスに基づくアプローチ, 森北出版
1996年	: Altheide, David. : <i>Qualitative Media Analysis</i> , (Vol.29), Thousand Oaks: Sage Publications. 内容分析の方法
1996年	: Chen, Chaomei, & Rada, Roy. : Interacting with hypertext: A meta-analysis of experimental studies. <i>Human-Computer Interaction</i> , 11, 125-156. NC IC(インターネットの内容分析)
1996年	: Garrett, Dennis E., & Meyers, Renee A. : Verbal communication between complaining consumers and company service representatives. <i>The Journal of Consumer Affairs</i> , 3(2), 444-475.
1996年	: Riffe, Daniel, Lacy, Stephen, & Drager, Michael W. (1996). Sample size in content analysis of weekly news magazines. <i>Journalism and Mass Communication Quarterly</i> , 73(3), 635-644. (出版物の内容分析)
1997年	: 古郡 廷治 : 言葉と言語処理 情報系教科書シリーズ, 昭晃堂
1997年	: Lebart, L., Salem, A., & Berry, L. : <i>Exploring textual data</i> . Dordrecht: Kluwer.
1997年	: Natowitz, A, and Carlo, PW, "Evaluating review content for book selection: an analysis of American history reviews in <i>Choice</i> , <i>American Historical Review</i> , and <i>Journal of American History</i> ," <i>College &amp; research libraries</i> 58 (1997): 323-336
1997年	: Roberts, Carl W. (Ed.) : <i>Text analysis for the social sciences: Methods for drawing statistical inferences from texts and transcripts</i> . Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
1997年	: Jehn, K. & Doucet. : Developing categories for interview data: Consequences of different coding and analysis strategies in understanding text. Part 2. <i>Cultural Anthropology Methods Journal</i> 9(1):1-7.
1997年	: Carley, Kathleen M. : Extracting team mental models through textual analysis. <i>Journal of Organizational Behavior</i> , 18, 533-558.
1997年	: Jehn, K. : A qualitative analysis of conflict types and dimensions in organizational groups. <i>Administrative Science Quarterly</i> , 42:530-557.
1997年	: Watts, D. D. : Correspondence analysis--A graphical technique for examining categorical data. <i>Nursing Research</i> 46:235-239.
1997年	: Bates, Marcia J. & Lu, Shaojun. : An exploratory profile of personal home pages: content, design, metaphors. <i>Online and CDROM Review</i> , 21(6), 331-340.
1997年	: Plous, S., & Neptune, Dominique. : Racial and gender biases in magazine advertising: A content-analytic study. <i>Psychology of Women Quarterly</i> , 21, 627-644.
1997年	: マデリン M.レイニンガー、伊藤和弘訳 : 看護における質的研究, 医学書院
1997年	: Rob Mattison (著), 富士通経営研修所 : データマイニング 戦略と活用, 富士通ブックス
1997年	: Hunt, W. Ben : <i>Getting to war: Predicting international conflict with mass media indicators</i> . Ann Arbor: University of Michigan Press.
1997年	: Fan, David P. : Computer content analysis of press coverage and prediction of public opinion for the 1995 sovereignty referendum in Quebec. <i>Social Science Computer Review</i> , 15(15), 351-366. (出版物の内容分析)
1997年	: Strauss, A., and J. Corbin. : <i>Grounded Theory in Practice</i> . Thousand Oaks, CA: Sage Publications
1997年	: Severin, Werner J., & Tankard, James W. : <i>Communication theories: Origins, methods, and uses in the mass media</i> . New York, NY: Longman.
1998年	: 高山忠夫, 安梅勅江 : グループインタビュー法の理論と実際—質的研究による情報把握の方法, 川島書店
1998年	: Riffe, Daniel, Stephen Lacy, and Frederick G. Fico. <i>Analyzing Media Messages: Using Quantitative Content Analysis in Research</i> . Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
1998年	: Carpenter, Sandra. : Content analysis project for research novices. <i>Teaching of Psychology</i> , 25(1), 43-44 (内容分析の方法)
1998年	: Boyatzis, Richard E. : <i>Transforming qualitative information: Thematic analysis and code development</i> . Thousand Oaks, CA: Sage.
1998年	: Tashakkori, A., and C. Teddlie. : <i>Mixed Methodology: Combining Qualitative and Quantitative Approaches</i> . Thousand Oaks, CA: Sage Publications.
1998年	: Horowitz, Steven W. : Reliability of criteria-based content analysis of child witness statements: Response to Tully. <i>Legal and Criminology Psychology</i> , 3, 189-191.(内容分析の方法)
1998年	: MacQueen, Kathleen M., Eleanor McLellan, Kelly Kay, and Bobby Milstein. 1998. Codebook development for team-based qualitative research. <i>Cultural Anthropology Methods Journal</i> 10(2):31-36.
1998年	: Riffe, Daniel, Lacy, Stephen & Fico, Frederick : <i>Analyzing media messages: Using quantitative content analysis in research</i> . Hillsdale, NJ: Erlbaum.
1998年	: 上田 太一郎 : データマイニング事例集, 共立出版.
1998年	: Markel, Norman Nathan : <i>Semiotic psychology: Speech as an index of emotions and attitudes</i> . New York, NY: Lang.
1999年	: アンセルム・ストラウス : 質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリーの技法と手順, 医学書院
1999年	: 木下康仁 : グラウンデッド・セオリー・アプローチ—質的実証研究の再生, 弘文堂
1999年	: Hodson, Randy (1999). <i>Analyzing documentary accounts</i> . London: Sage.

(次項へ続く)

内容分析の歴史からみた質的研究の問題点と今後の課題

1999年 : Manning, Christopher D. & Schutze, Hinrich (Eds.) : Foundations of statistical natural language processing. Cambridge, MA: MIT Press.
1999年 : Alexa, Melina, & Zuell, Cornelia. : A review of software for text analysis. ZUMA Nachrichten Spezial 5. ZUMA: Mannheim.
1999年 : Pennebaker, James W., & Francis, Martha E. : Linguistic inquiry and word count (LIWC). Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Inc.
1999年 : マイケル・J.A. ベリー : データマイニング手法—営業, マーケティング, カスタマーサポートのための顧客分析, 海文堂出版
1999年 : 舟島 なをみ : 質的研究への挑戦, 医学書院
1999年 : Hanlein, Heike : Studies in authorship recognition: A corpus-based approach. Frankfurt am Main: Lang..
1999年 : Domhoff, G. William. : New directions in the study of dream content using the Hall and Van de Castle coding system. Dreaming: Journal of the Association for the Study of Dreams, 9(2-3), 115-137.
1999年 : Ryan, G. : Measuring the typicality of text: Using multiple coders for more than just reliability and validity checks. Human Organization 58:313-322.
1999年 : Benoit, W. L. : Seeing Spots : A Functional Analysis of Presidential Television Advertisements, 1952-1996. Westport, CT: Praeger.
2000年 : ホロウェイ : ナースのための質的研究入門—研究方法から論文作成まで : 医学書院
2000年 : West, Mark D. (Ed.) : Applications of computer content analysis. Norwood, NJ: Ablex.
2000年 : Ryan, G., and H. R. Bernard. : Data management and analysis methods, In Handbook of Qualitative Research, 2nd Ed. Edited by N. D. a. Y. Lincoln, pp. 769-802. Thousand Oaks: Sage Publications.
2000年 : Popping, Roel : Computer-assisted text analysis. Lanham, MD: University Press of America.
2000年 : Lepper, Georgia : Categories in text and talk: A practical introduction to categorization analysis series. Thousand Oaks, CA: Sage.
2000年 : Denzin, Norman K. Handbook of Qualitative Research. Sage Publications: Thousand Oaks(質的研究の様々な方法の紹介)
2000年 : 吉村賢治 : 自然言語処理の基礎, サイエンス社.
2000年 : West, Mark D. (Ed.) : Theory, method, and practice in computer content analysis. Norwood, NJ: Ablex.
2000年 : MacWhinney, Brian : The CHILDES Project: Tools for Analyzing Talk. 2 vols. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
2000年 : Weitzman, E. A. : Software and qualitative research. In The Handbook of Qualitative Research. Edited by N. K. Denzin and Y. Lincoln. Thousand Oaks, CA: Sage Publications, Inc.
2000年 : West, Mark D.(Ed.) : Applications of computer content analysis. Norwood, NJ: Ablex.
2000年 : Miller, M. Mark. : Counting words and building mass communication theory. Paper presented to the Information Systems Division, International Communication Association annual conference.(内容分析の方法)
2000年 : Bauer, Christian, & Scharl, Arno. : Quantitative evaluation of Web site content and structure. Internet Research: Electronic Networking Applications and Policy, 10, 31-43.(インターネットでの内容分析)
2000年 : Charmaz, K. : "Grounded theory: Objectivist and contructivist methods," in the Handbook of Qualitative Research. Edited by N. K. Denzin and Y. Lincoln. Thousand Oaks, CA: Sage Publications, Inc.
2001年 : キャサリン ポープ (編集) : 質的研究実践ガイド—保健・医療サービス向上のために, 医学書院
2001年 : Heyman, Richard E., Bushra R. Chaudhry et al. : "How Much Observational Data is Enough? An Empirical Test Using Marital Interaction Coding." Behavior Therapy 32, no. 1,107-122.
2001年 : 安梅 勲江 : ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法—科学的根拠に基づく質的研究法の展開, 医歯薬出版
2001年 : 豊田秀樹 : 金鉱を掘り当てる統計学—データマイニング入門 ブルーボックス, 講談社
2001年 : 上田 太郎 : Excelでできるデータマイニング演習, 同友館
2001年 : 森下真一, 宮野 悟 編集 : 発見科学とデータマイニング, 共立出版
2001年 : 福田 剛志 : データマイニング データサイエンス・シリーズ, 共立出版
2001年 : Roberts, C.W. "Content Analysis." International Encyclopedia of the Social and Behavioral Sciences. Elsevier: Amsterdam, 2001.(過去50年間の内容分析の歴史の紹介)
2001年 : 佐藤雅春 : 個客行動を予測する「データマイニング」, 日刊工業新聞社
2001年 : West, Mark D., ed. Theory, Method, and Practice in Computer Content Analysis. Westport, CT: Ablex.
2001年 : SPSS : マーケティングのためのデータマイニング入門—データから隠れたパターンを発見する, 東洋経済新報社
2001年 : Johnson, Janet Buttolph. : Political Science Research Methods. 4th ed. CQ Press: Washington,(内容分析の事例)
2001年 : Lynch, Beverly P., Smith, Kimberley Robles. : "The Changing Nature of Work in Academic Libraries." College and Research Libraries. Chicago: American Library Association 62(5),407-420.(情報科学の分野における内容分析)
2001年 : 福田剛志 : データマイニング データサイエンス・シリーズ, 共立出版
2001年 : Neuendorf, Kimberly A. : The content analysis guidebook. Thousand Oaks, CA: Sage.
2001年 : West, Mark D., ed. Applications of Computer Content Analysis. Westport, CT: Ablex.
2002年 : Sydserff, Robin, and Pauline Weetman. "Developments in Content Analysis: A Transitivity Index and DICTION Scores." Accounting Auditing and Accountability Journal 15(4)523-545.
2002年 : 中尾 浩 (著) : コーパス言語学の技法 〈1〉 テキスト処理入門, 夏目書房
2002年 : 無藤 隆 (編集) : 質的心理学研究, 新曜社
2002年 : 三井 宏隆 他編 : キーワード検索による社会心理学研究案内—調査・面接・観察・内容分析で読む, ナカニシヤ出版
2002年 : Domhoff, G. W. : The Scientific Study of Dreams: Neural Networks, Cognitive Development, and Content Analysis, APA.
2002年 : Kondracki NL., Wellman NS., Amundson DR. : Content analysis: review of methods and their applications in nutrition education. [33 refs] Journal of Nutrition Education & Behavior.34(4):224-30.
2002年 : Semino, E. & Culpeper, J. (Eds.) : Cognitive Stylistics: Language and Cognition in Text Analysis. Philadelphia, PA: John Benjamins.
2002年 : Shotton DM. Rodriguez A. Guil N. Trelles O. : A metadata classification schema for semantic content analysis of videos. : Journal of Microscopy. 205(Pt 1):33-42.

(次項へ続く)

2002年 : Sackley CM. Pound K. : Stroke patients entering nursing home care: a content analysis of discharge letters. <i>Clinical Rehabilitation</i> . 16(7):736-40.
2002年 : Iwamasa GY. Sorocco KH. Koonce DA. : Ethnicity and clinical psychology: a content analysis of the literature. : <i>Clinical Psychology Review</i> . 22(6):931-44.
2002年 : Benoit, W. L. et al. : <i>The Primary Decision: A Functional Analysis of Debates in Presidential Primaries</i> . Westport, CT: Praeger.
2002年 : Chilton, P. A. & Schaffner, C. (Eds.) : <i>Politics as talk and text: Analytical approaches to political discourse</i> . Philadelphia, PA: John Benjamins.
2002年 : Bernard, H.R. : <i>Research Methods in Cultural Anthropology</i> , 3rd Edition. Sage Publications.
2002年 : Gottschalk LA. Bechtel RJ. Et al. : Computer detection of cognitive impairment and associated neuropsychiatric dimensions from the content analysis of verbal samples. : <i>American Journal of Drug &amp; Alcohol Abuse</i> . 28(4):653-70.
2002年 : Neuendorf, Kimberly A. <i>The Content Analysis Guidebook</i> . Thousand Oaks, CA: Sage.
2003年 : Ribisl KM. Lee RE. Henriksen L. Haladjian HH. : A content analysis of Web sites promoting smoking culture and lifestyle. <i>Health Education &amp; Behavior</i> . 30(1):64-78.
2003年 : Fasnacht PH. : Creativity: a refinement of the concept for nursing practice. <i>Journal of Advanced Nursing</i> . 41(2):195-202.

表1の説明

\* ( )内は, Krippendorff, Klaus(1989年)の著書の中でのタイトル, 見出し等を含む.  
この内容分析に関する歴史年表の作成にあたっては, 以下の文献を参考に内容分析に関連する文献を掲載した(文献の記載以外は, Krippendorff, Klausの説明をまとめたものを掲載). 文献の後の( )内は筆者の説明.

[参考文献]

1. Klaus Krippendorff : *Content analysis : an introduction to its methodology*, Sage Publications , 1980
2. Krippendorff, Klaus. "Content Analysis." *International Encyclopedia of Communications*. vol. 1. Oxford University Press: Oxford, 1989.
3. Krippendorff, Klaus. : *メッセージ分析の技法—「内容分析」への招待*, 三上 俊治, 椎野信雄, 橋元良明訳(翻訳), 勁草書房, 1989年
4. Bernard Berelson : *Content analysis in communication research* : Free Press,1952
5. バーナード・ベレルソン : 稲葉三千男, 金圭煥訳 : *内容分析*, みすず書房,1957.
6. PREMEDLINE and MEDLINE(1966年~2003年2月)
7. 医学中央雑誌Web版(1986年以前~2003年2月)

## 内容分析とは

内容分析の定義には, 次に示すように多くの定義が存在する.

Berelson<sup>2)</sup>の定義: 「記述全体を文脈単位, 1内容を1項目として含むセンテンスを記録単位とし, 個々の記録単位を意味内容の類似性に基づき分類・命名する」と, 最終目標を分類・命名にしている. 日本での質的研究のバイブル的存在となっている定義である.

Krippendorff<sup>1)</sup>の定義: 「内容分析とは, データをもとにそこからそれが組みこまれた文脈に対して再現可能でかつ妥当な推論を行うための一つの調査技法である」というように, 妥当な推論を行うことを目的としている. Krippendorffは, 分析する記録単位について詳細に述べている.

以上のことから, 「内容分析とは, 調査で得られたデータをもとに記録単位で分析し, 分類・命名することによってある事象を明らかにすることである.」と言える.

## 質的研究と情報のコーディング

量的研究とは情報を数量化し分析する研究であり, 統計手法はパラメトリック検定を用いる. 一方, 質的研究とは, 概念の構築など数量化によらない研究である. 半構成的な面接をした後に, コーディングをするなどして概念化をこころみる. 統計手法としては, ノンパラメトリック検定などがある<sup>4)</sup>. 質的研究の代表的例として, グラウンデッドセオリー, 記述民族学, 現象学的アプローチがある.

### 1. グラウンデッドセオリー

優れた科学を実践するための基準を満たす具体的理論を発展させることを可能にする<sup>4)</sup> (重要性, 理論一観察の両立性, 一般化可能性, 再現性, 正確さ, 厳密さ, 検証可能性). グラウンデッドセオリーの手順は, ①理論的感受性②理論的対象選択③コード化とカテゴリー化(カテゴリー, 中核カテゴリー)④継続比較⑤データとしての文献の使用⑥理論への統合⑥理論メモとフィールド記

録を書くという手順を経る<sup>11)</sup>。

## 2. 記述民族学

文化を直接記述する学問である。「文化とは、あるグループの生活の仕方すべてであり、社会的に構成され、伝承され、学習された行動である。」看護学におけるこの方法は、臨床の場での行動や認識を調査する方法である。記述民俗学の研究の特徴は、①観察と面接からのデータ収集、②濃密な記述と自然主義的姿勢、③主要情報提供者との活動→イーミックな特徴（内部の人の考え方を理解する）、あるいはエティックな特徴（記述民族学者自身の考え方）と進む。

記述民族学的な分析の方法は、(1)資料の秩序付け(2)データの読み直し(3)資料の断片化(4)カテゴリーを打ち出し、比較する。(5)カテゴリー間の関係の探索とカテゴリー同士のグループ化(6)パターン、テーマ、類型を見出し、記述する。(7)意味を解釈し、探求する<sup>11)</sup>。

## 3. 現象学的方法

現象学はフッサールやハイデッガーなどの哲学者より論じられてきた。その定義はさまざまなものがあるが、ここでは現象学的方法論を紹介する。Colaizzi<sup>13)</sup>によれば、現象学的研究には次の7段階があると述べている。(1)参加者の語りを読み、その考え方に對し何らかの印象をもつ。(2)研究者が、研究する現象に関係ある言葉や文を抜き出す(有意な陳述の抽出)(3)有意な陳述に対して、意味を定式化する。(4)定式化された材料をいくつかのテーマ群に整理する。(5)総括的な記述の統合。(6)現象の総括的な記述を本質的構造に還元する。(7)最終の段階は、研究者は研究参加者のもとへ戻って、もう一度面接を行い出てきた結果に対する意見を引き出し、その内容が正しいという確認をしてもらう。

以上のように、いずれの方法もコーディングする際には、研究者を中心に行い、この作業は複数で行う。これらの方法はいずれも、人に依存していると言える。コーディングをする場合に問題となるのは、一致率である。例えば日本では、KJ法などの手法が開発されているが、一致率が記載されている論文は数少ない。また、低い一致率の場合がある。ここに、人のみによるカテゴライズ

化には限界があると考えられる。たとえば、複数の研究者で看護とは何かについて、概念を抽出する時、参加人数が増えれば増えるほど記述内容は増え、作業量は膨大なものになってしまう。

筆者が現在進めている内容分析では、この欠点を補うことができる。ポイントは、コンピュータを利用することである。コンピュータを利用した内容分析の手順は(1)インタビュー内容のテキスト化、印刷物のテキスト化(テキスト化とはコンピュータへの文字入力をいう)、(2)形態素解析、(3)単語レベルでの解析、(4)統計処理:カテゴライズ(クラスター解析など)、 $\chi^2$ 乗検定、主成分分析、数量化解析と進む。

従来の方法と異なるところは、コンピュータを利用したカテゴライズが可能となることである。コンピュータを利用することで、人の手でゆだねられていたコーディングが、コンピュータの解析を利用することで、より正確にすることができる。つまり一致率を向上させることができるのである。さらに、カテゴリーのネーミングも数量化理論などを用いてかなり正確にできるようになってきた。

## 量的研究と質的研究の接点

今までの量的研究と質的研究の定義によると、量か質かは数値を扱うかどうかで決まってしまうといったニュアンスがある。質的研究は、面接時の会話を逐語録としてテキスト化することによってその後の分析が可能となる。記録単位を文脈とした場合には、コーディングする時にいくつも同じ記録単位を集積することになるので、結局は数量的なデータを扱うことにもなる。これは内容分析をしている場合に特に感じる。内容分析では、単語を記録単位とした場合に同じ単語のカウントをする行程がある。その時には量を扱っていることになる。結局は、研究を質的研究と量的研究に分けるのはあまりに大雑把すぎると考えている。むしろ、質的研究も量的研究も相互に影響していると考えられる。



## 質的研究の問題点と課題

### 1. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて

非言語的コミュニケーションの分析：従来の面接調査では、会話が主体となり、逐語録には、表情やしぐさなどは反映されないことが多い。「目は口ほどにものを言う」という諺があるように、今後は非言語的コミュニケーションへのアプローチも必要である。方法論的には、従来の面接時のフィールドノートやテープ録音の他に、表情やしぐさを観察するチェック項目が必要となろう。

ただし、研究者の注意力にも限界があるので、ビデオなどの機器を使うとより効果的である。ただし、倫理的な配慮やバイアスを十分に考慮しなければならない。宇佐美ら<sup>15,16)</sup>は、「自然会話への言語社会心理学的アプローチ」の手順を(1)目的に応じて、条件を統制してデータを収集する。(2)フォローアップ・アンケート(インタビュー)等で、必ず被験者の背景的情報や、会話自体の感想などを収集し、定量的処理ができるようにする。(3)分析項目のコーディング(4)コード化の過程で失われたものがないかを、必ず、質的な分析で確認・検討すると述べ、会話自体の定量化を推奨している。会話の定量化は、数値化を意味し、コンピュータ処理ができるようになる。

### 2. 方法論「記録をとること」について

質的研究は、記録をとることが重要である。このとるには、「撮る」「録る」「取る」の意味がある。具体的な方法としては、テープ録音(ボイスレコーダーの利用)、面接中の記録、面接後の記録の3つの方法があるが、最も簡便で面接中の雰囲気をこわさないのがテープ録音であろう。ビデオ撮影を用いると、表情、しぐさ等の分析も可能となるが、対象者がかえって意識してしまい、雰囲気を損なう可能性があるため、注意が必要である。重要なことは対象者の言葉を正確にテキスト化することである。これらの方法を実施するにあたっては、参加者(対象者)からの承諾を得なければならないので十分に注意が必要である。

### 3. 記録単位の表示(書き方)と課題

従来の記録単位の表示の仕方は、「面接時間」、「記録単位数」、「%」などであるが、信頼性の観点から考えると、これでは不十分と考える。それは、人の話すスピードは様々であるからである。同じ面接時間60分としても、速く話す人と遅く話す人では、会話内容に物理的な差が生じてしまうからである。特に質的研究をする場合には、これらを十分に吟味しないと、非常に偏ったカテゴリーができる可能性がある。記録単位の表示はコンピュータの導入により形態素解析を行うことで、「語数」、「単語数」などの表示が可能となる。これらの計測が可能となることで、会話内容の分析をする時に、分析時のバイアスをさけるために一人当たりの語数等を考慮して調整する必要がある。

### 4. 一致率の問題

一致率は、研究者とスーパーバイザーなどによって、コーディングした後に表記されることが多いが、正確には、例えば、「一致率90%のスーパーバイザーで類型化する」のが正しい。多くの論文で、結果を出した後に一致率を書き加えることが多いが、本来は研究の前に研究者同士で、シミュレーションして一致率を測定するという作業が今後は必要となるであろう。また、コンピュータを利用し、会話の形態素解析をした後に単語レベルでの統計処理をすることで、信頼性の高い分類・命名ができる。今後、このような分析方法が増えていくと考えられる。

### 5. コーディングの問題

コーディングの方法は、記述民族学、グラウンデッドセオリー、現象学的研究等によって方法は異なるが、一つの文脈を単位としてコーディングする作業は共通している。コーディングにも、オープンコーディング、軸足(Axial)コーディング、中核カテゴリーライン、一次コーディング、二次コーディングといった手順をふむ研究手法もあるが、いずれの方法もコーディングの作業は、複数の研究者で行う場合、高い一致率をめざすようにしたい。そのためにも、コンピュータを利用した形態素解析などの手法を用いてより高い信頼性を

めざす必要がある。

## 6. 内容分析の現状と今後の課題

内容分析の研究は、現在、情報処理、文学、歴史、経営学、教育学などの分野で使われ研究されているが、看護の分野では、内容分析に関する研究は数少ない。内容分析の歴史の項でふれたように、コンピュータの発達によって、内容分析は、コーディングのみならず、 $\chi^2$ 乗検定、クラスター解析、主成分分析、数量化分析が可能となった。これからの多くの看護の領域でその活用は広がるであろう。特に、自由記載の調査票の分析に大きな威力を発揮すると考えられる。

### 終わりに

グラウンデッドセオリー、現象学的アプローチ、エスノグラフィーなどの質的研究とともに内容分析の研究も数は少ないが看護界でもみられるようになってきた。現在、内容分析は他領域でも盛んに使われ始めている。手法の呼び方は、データマイニング、言語処理、テキスト解析、形態素解析、分かち書きなど様々であるが、今後、内容分析は、インタビュー、テキスト、自由記載などの調査票の分析を通して、様々な看護における現象を分析するのに有用なツールとなるであろう。

### 文 献

- 1) Krippendorff・Klaus. : 三上俊治, 椎野信雄, 橋元良明訳 (翻訳). メッセージ分析の技法—「内容分析」への招待. 勁草書房, 東京, 1989.
- 2) Bernard・Berelson (稲葉三千男, 金圭煥訳) : 内容分析. みすず書房, 東京, 1957.
- 3) 舟島なをみ : 質的研究への挑戦, 医学書院, 東京, 1999.
- 4) アンセルム・ストラウス, ジュリエット・コービン, (操華子他訳) : グラウンデッド・セオリーの技法と手順. 医学書院, 東京, 1999.
- 5) 木下康仁 : グラウンデッド・セオリー・アプローチ 質的実証研究の再生. 弘文堂, 1999.
- 6) 平山満義 (編) : 質的研究法による授業研究 : 教育学/教育工学/心理学からのアプローチ. 北大路書房, 1997.
- 7) 北澤毅, 古賀正義 (編) : <社会>を読み解く技法 質的調査法への招待. 福村出版, 1997.
- 8) 志水宏吉 (編) : 教育のエスノグラフィー : 学校現場のいま』. 嵯峨野書院, 京都, 1998.
- 9) メイナード・K・泉子 : 会話分析. くろしお出版, 東京, 1993.
- 10) ウヴェ・フリック : 質的研究入門—<人間の科学>のための方法論. 春秋社, 2002.
- 11) Immy Holloway, Stephanie Wheeler (野口美和子監訳) : ナースのための質的研究入門. 医学書院, 東京, 2000.
- 12) Renata Tesch: Qualitative Research, Analysis Types and Software Tools. In "History of Qualitative Research", pp9-19, The Falmer Press, 1990.
- 13) Colaizzi, P: Psychological research as a phenomenologist views it. In Existential Phenomenological Alternatives for Psychology (eds R. Valle, M. King), pp48-71, Oxford University Press, New York, 1978.
- 14) 上野栄一 : 看護研究ポケットガイド. 医学書院, 東京, 2000.
- 15) 宇佐美まゆみ : 自然会話の文字化資料作成とそのデータベース化に関する一考察 日本人初対面二者間会話72 会話の文字化資料の整備 データベース化作業を通して 日本人の談話行動のスキプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作. 文部省科学研究費基盤研究 (C) 研究成果報告書, 1997a.
- 16) 宇佐美まゆみ : 基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ) の開発について 日本人の談話行動のスキプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作. 文部省科学研究費一般研究 (C) 研究成果報告書, 1997c.